

講義科目名称： 介護等体験

授業コード： 5515A

英文科目名称： Practice in Social Volunteer Work

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(1-3)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：講義・演習	ナンバリング：TTC320		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 介護等体験の意義を理解し、社会福祉施設、特別支援学校での体験を充実させたものにする。それらの体験を、他の受講生とシェアし、レポートにまとめ、発表会で報告することを通じて、体験の意義を何度も反芻し、血肉化する。</p> <p>【到達目標】 (1) 高齢者、障がい者と円滑にコミュニケーションをとれるようになる。(2) 人の心の痛みを理解し、多様な価値観を受容できるようになる。</p>
授業の概要	<p>「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験(以下「介護等の体験」という。)を行わせる」(通称「介護等体験特例法」) ことになっている。その介護等体験を実りあるものにするための事前・事後指導を本授業では行う。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 本授業の概要説明。介護等体験の事務手続き。様々な社会福祉施設についての説明。 【事前学習】 これまでの高齢者や障がい者との触れ合いを振り返る。 【事後学習】 授業で配布されたレジュメを再読する。</p> <p>第2回 高齢者施設について 教科書を読み合わせしながら、様々な高齢者福祉施設について学ぶ。 【事前学習】 『よくわかる社会福祉施設 第4版』を読んでおく。15時間ほどの学修時間を必要とする。 【事後学習】 授業のレジュメを再読する。</p> <p>第3回 疑似高齢者体験 高齢者体験グッズを用いて、高齢者の身体的な不具合を体験する。それを通じて、高齢者の気持ちに接近したい。 【事前学習】 『よくわかる社会福祉施設 第4版』の高齢者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】 授業のレジュメを再読する。</p> <p>第4回 障がい者施設について 教科書の読み合わせを行い、様々な障がい者施設について学ぶ。 【事前学習】 『よくわかる社会福祉施設 第4版』の障がい者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】 授業のレジュメを再読する。</p> <p>第5回 車いす体験 車いす体験を行い、私たちの環境が障がい者にとっていかにバリアの多い環境であるかを理解する。 【事前学習】 とくになし。 【事後学習】 大学を歩き回り、車いすユーザーにとってのバリアを発見する。</p> <p>第6回 社会福祉施設からのメッセージ(講師：宮城樹正氏) 長年、高齢者福祉施設で勤務なさってきた宮城樹正氏から、高齢者福祉施設での体験が成功させるための助言をいただく。 【事前学習】 『よくわかる社会福祉施設 第4版』の高齢者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】 授業のレジュメを再読する。</p> <p>第7回 特別支援学校について① 教科書を読み合わせることで、特別支援学校についての知識を整理する。 【事前学習】 『介護等体験ガイドブック フィリア』を熟読しておく。10時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】 授業のレジュメを再読する。</p> <p>第8回 特別支援学校の見学 鏡が丘特別支援学校、あるいは大平特別支援学校を訪問し、施設を見学し、担当者から、特別支援学校での介護等体験についての注意事項をレクチャーしていただく(ガイダンス、スーツ着用)。 【事前学習】 沖縄県内の特別支援学校のHPを熟読しておく。 【事後学習】 配布された資料を熟読する。</p> <p>第9回 特別支援教育について 中学校・高校での特別支援教育～自閉症の生徒の理解について。DVDを視聴し、どのような対応が可能か議論する。 【事前学習】 『介護等体験ガイドブック フィリア』を再読する。</p>

	<p>【事後学習】 クラスメートと感想を交換する。</p> <p>第10回 介護体験のQ&amp;A（学生の発表） 教科書『介護等体験ガイドブック フィリア』の内容を学生が分担し、ミニレクチャーを行う。 【事前学習】ミニレクチャーを行うためのミニティーチングプランを作る。15時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】教科書の再読。</p> <p>第11回 社会福祉施設での体験の事後報告会①（高齢者福祉施設） 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。</p> <p>第12回 社会福祉施設での体験の事後報告会②（障がい者福祉施設、児童福祉施設、生活保護にかかわる施設） 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。</p> <p>第13回 特別支援学校での体験の事後報告会①（知的発達に遅れのある生徒との関わり） 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。</p> <p>第14回 特別支援学校での体験の事後報告会②（肢体不自由児との関わり） 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。</p> <p>第15回 介護等体験報告会 教職課程履修中の1、2年生への介護等体験報告会を行う。レポート集を作成し、体験の意義を報告することで、その意義を再確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。報告会冊子を作成する。報告会の役割分担を行う。事前に10時間以上の準備・学修を必要とする。 【事後学習】報告会に参加した1、2年の学生と意見を交換する。</p> <p>※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、2冊のテキストを読むことに30時間、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、報告会準備に10時間、感謝文・お礼状等の作成に5時間を想定している。</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	『よくわかる社会福祉施設 第4版』全国社会福祉協議会、図書印刷株式会社 『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校校長会編著、ジアース教育新社
参考書	権田真吾『ぼくはアスペルガー症候群』彩図社、2014年 岡野雄一『ペコロスの母に会いに行く』西日本新聞社、2012年
評価方法	授業への貢献度（50%）、発言の質（20%）、体験先の担当者の評価（30%）。それらをもとに総合的に評価する
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>… 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>… 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>… 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>… 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1 履修要件としてスクリーニングテストに合格、仮合格していること</p> <p>2 前期配当科目となっているが、10月まで体験が行われることもあるので、前期後期ともに在籍していること。</p> <p>3 スクリーニングの仮合格の者で、本科目履修中に、教職課程の履修を断念しても、最後の報告会まで参加し、単位習得を目指すこと。</p>

	3 ふまじめな態度、教員にふさわしくない態度があった場合、履修を差し止めまることもあります。
オフィスアワー	検討中
課題に対する フィードバック方法	課題は極力コメントを付し授業中に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
芳澤 拓也			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC302		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 道徳の理論と実践を学ぶ ※授業は、この授業は旧「教育職員免許法施行規則」(H30年以前)に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」(R1年以降)における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目です。</p> <p>【到達目標】 ①道徳教育に関する多様な見方・考え方を知り、自分なりに考えることができる。 ②中学校学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。 ③道徳の授業構想・計画、教材研究、授業実践・評価を行うことができる。</p>
授業の概要	<p>学校現場では、「特別の教科 道徳」を指導することになります。この授業では、現在の道徳教育が戦前の反省に立脚していることを確認した上で、①学習指導要領における規定、「特別の教科 道徳」の特質を理解し、②学校現場において展開されている道徳授業事例の批判的検討を行い、③「「考え、議論する」ことを重視した授業、アクティブ・ラーニングの視点を念頭においた道徳授業等を検討し、④こうした授業づくりに必要な、道徳をめぐる論理の検討を経て、道徳授業を実践・評価できる力を身につけていきたいと考えています。</p>
授業計画	<p>第1回 「道徳(教育)」とは何か①ー道徳教育の目標ー 本講義の概要説明。「道徳」、この言葉の持つ意味を考える。道徳教育と道徳科の違いを理解する。 【事前学習】自身が受けてきた道徳教育を振り返り、道徳の授業で何を学んだか話せるように準備をする。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、レポート前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート(学習指導案)作成に30時間を想定している。</p> <p>第2回 「道徳(教育)」とは何か②ー戦前の道徳教育への反省からー 「教育勅語」に象徴される戦前の修身教育の在り方を考える。その上で、「道徳科」導入の際、どのような議論があったかを理解する。 【事前学習】戦前の日本の学校教育について、自身の知識を整理する。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第3回 道徳性の発達理論①ー徳目主義(日本)、インカルケーション(アメリカ)のゆがみー 道徳の授業について、徳目主義、インカルケーション批判から、日米における「道徳教育」にたいしどのような批判的検討が行われてきたかを理解する。  「言葉の向こうに」、「一冊のノート」、「卒業文集最後の二行」、「二通の手紙」といった道徳科のテキストを読解する。  【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第4回 道徳性の発達理論②論ーコールバーグの提起：インカルケーション、価値の明確化を越えてー アメリカにおけるインカルケーション、価値の明確化の議論を批判しつつ、道徳性の発達理論を提唱したコールバーグの議論を学ぶ  【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第5回 「道徳(教育)」とは何か③ー道徳教育の目標と道徳教育ー 教育基本法における道徳教育の理念について考察する。  道徳テキスト「手品師」を批判的に読む。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第6回 道徳科の目標とテキスト分析 道徳科の目標を理解する。その上で、道徳テキストの読解を行う。  【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第7回 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業①ー基本的な考え方、実践事例検討・テキスト「二通の手紙」ー 道徳科における内容項目を理解する。その上で、道徳科テキスト「二通の手紙」の読解および授業実践を批判的に検討する。 【事前学習】事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「二通の手紙」読解する。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第8回 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業②ー授業実践事例をもとに考える、教材「一冊のノート」ー</p>

	<p>道徳科テキスト「一冊のノート」の読解および授業実践を批判的に検討する。</p> <p>【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「一冊のノート」を読解する。 【事後学習】 レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業③－授業実践事例をもとに考える、教材「卒業文集最後の二行」－ 道徳科テキスト「卒業文集 最後の二行」の読解および授業実践を批判的に検討する。</p> <p>【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「卒業文集 最後の二行」を読解する。</p> <p>【事後学習】 レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業④－授業実践事例をもとに考える、教材「言葉の向こうに」－ 道徳科テキスト「言葉の向こうに」の読解および授業実践を批判的に検討する。 【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「言葉の向こうに」を読解する。</p> <p>【事後学習】 道徳の指導案を作成し提出してもらおう。提出前に、授業外でクラスメイトとミニ模擬授業をおこなってもらおう。指導案の作成のための調べる作業、作成作業、ミニ模擬授業で30時間ほどの学修時間を必要とする。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業⑤－道徳資料の検討と授業展開の工夫、多面的・多角的な学び－ 改めて、道徳科の目標を確認しつつ、道徳科における授業展開の在り方、その工夫について考え、自らが実践する道徳科の授業をイメージする。とくに、自己を見つめる、物事を多面的・多角的に考える、自己の生き方についての考えを深める学習を念頭に置く。</p> <p>【事前学習】 これまで考察してきたテキスト、授業の進行について、ノートに整理する。 【事後学習】 自らが実践する道徳科授業のイメージをノートに整理する。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業⑥－道徳資料の検討と授業展開の工夫、評価－道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度との関連を念頭におきつつ、道徳科の評価の在り方について考える。</p> <p>【事前学習】 【事後学習】 モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 授業の計画－学習指導案の構成・作成・評価－ 模擬授業へ向けて、授業を構想しつつ、学習指導案を作成する。</p> <p>【事前学習】 道徳科の学習指導案と他教科の学習指導案の違いを調べる。 【事後学習】 モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 授業の計画－カリキュラム・マネジメント－ 改めて道徳教育の目標、道徳科の目標を整理しつつ、カリキュラムの中での道徳科の位置づけを知る。</p> <p>【事前学習】 テーマに関する内容にかかわって学習指導要領を確認する。 【事後学習】 テーマに関する内容にかかわって学習指導要領を確認する。 模擬授業－授業の展開の工夫－ 作成した道徳科学習指導案をもとに、模擬授業を実施し、相互評価する。授業では、授業展開の工夫に視点を置きフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】 学習指導案、教材、ワークシート等を作成し、模擬授業を構想する。 【事後学習】 模擬授業の実践をフィードバックする。</p> <p>第16回 模擬授業－教材の工夫－ 作成した道徳科学習指導案をもとに、模擬授業を実施し、相互評価する。授業では、教材の工夫に視点を置きフィードバックを行う。 【事前学習】 学習指導案、教材、ワークシート等を作成し、模擬授業を構想する。 【事後学習】 模擬授業の実践をフィードバックする。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講師が配布する資料、プリントをテキストとして用いる。
参考書	『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省） 他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。
評価方法	平常点（20点）、グループワーク、提出物、レポート（80%）。平常点は授業への参加意欲、「フィードバックシート」の内容等で総合的に評価する。
評価基準	<p>到達目標を観点として、以下の履修規定に定める基準に則り評価する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【   】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【   】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。</p> <p>2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。</p> <p>3 模擬授業の実践へ向けてグループ活動を予定している。グループリーダーを中心に、生産的な意見交換、批判、援助と支援を可能にする関係作りを意識して欲しい。また、授業内外で話合いが要求される。議論を深めるためにも、広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。</p> <p>4 授業内での連絡、提出物、グループ作業などにおいてMicrosoft Teamsを活用する。各自、デバイス持参で受講すること。</p>
オフィスアワー	連絡は、Microsoft Teamsのチャットを使用する。
課題に対するフィードバック方法	毎回の授業で配布・回収されるフィードバックシートを活用する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC321		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。また、模擬授業を行い、授業実践力を高める。</p> <p>【到達目標】 (1) 学校教育の現状や課題を総合的に理解する。(2) 道徳、HRの模擬授業を行える。</p>
授業の概要	<p>①これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ②さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明 本講義の概要説明。評価方法の確認。 【事前学習】これまでの教職課程での学びを振り返る。 【事後学習】模擬授業を行うための教材選びを行う。テーマ、教材選び、教員との2回の面談指導、指導案の作成、数人のクラスメートとの模擬授業の練習で45時間ほどの学修時間を必要とする。</p> <p>第2回 教育問題についての討議①(いじめ問題) いじめ問題のケーススタディーを行う。あなたが担任ならどのような働きかけを行うか。 【事前学習】いじめ問題についての意見をまとめておく。 【事後学習】ケースに関する対応を考える。</p> <p>第3回 教育問題についての討議②(小学校外国語活動、小学校英語について) 小学校における英語教育についての論文を輪読し、そのあり方を議論する。 【事前学習】課題論文を熟読する。 【事後学習】関連した論文を探して読む。</p> <p>第4回 教育問題についての討議③(子どもの貧困について) 子どもの貧困についての教育論文を読み、教員としてどのようなことができるのかを話し合う。 【事前学習】子供の貧困についての意見をまとめておく。 【事後学習】関連した論文を探して読む。</p> <p>第5回 模擬授業と反省会①(道徳の授業、モラルジレンマの授業) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらおう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p> <p>第6回 模擬授業と反省会②(道徳の授業、構成的グループエンカウンターを用いた授業) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらおう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p> <p>第7回 模擬授業と反省会③(道徳の授業、主として自分自身に関すること) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらおう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p> <p>第8回 模擬授業と反省会④(道徳の授業、主として他の人とのかわりに関すること。) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらおう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p> <p>第9回 模擬授業と反省会⑤(道徳の授業、主として自然や崇高なものとのかわりに関すること。)</p>

	<p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第10回	<p>模擬授業と反省会⑥（道徳の授業、主として集団や社会とのかかわりに関すること。）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第11回	<p>模擬授業と反省会⑦（道徳の授業、同和・人権教育に関連して）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第12回	<p>模擬授業と反省会⑧（道徳の授業、国際理解教育に関連して）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第13回	<p>模擬授業と反省会⑨（特別活動、クラスづくりのための授業）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第14回	<p>模擬授業と反省会⑩（特別活動、適応と成長及び健康安全に関する授業）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p>
第15回	<p>模擬授業と反省会⑪（特別活動、進路について考える授業）</p> <p>参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。</p> <p>【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。</p> <p>※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、第1回～第4回までの【事前学習】に60分（計4時間）、各回の【事後学習】に60分（計15時間）、模擬授業指導案作成（2回の教員との個別面談指導、プレ模擬授業を含む）に41時間を想定している。</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講師が配布するレジюме・資料をテキストとして用いる。
参考書	講義中に適宜お知らせする。 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法	授業への参加・貢献度（30%）、発言の質（30%）、模擬授業（40%）によって総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p>

	欠 (K) ー : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>… 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</li> <li>… 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</li> <li>… 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</li> <li>… 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 3年次までの教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。</li> <li>2 教育実習の実施年度に履修することが望ましい。</li> </ul>
オフィスアワー	調整中
課題に対するフィードバック方法	課題にはコメントを付し授業中に返却する。模擬授業には口頭でコメントと助言を行う。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	教職科目：選択科目
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC205		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 学校ボランティアの意義を理解し、体験する。</p> <p>【到達目標】 学校における学習支援や教育活動の補助を通じて、1) 社会奉仕の精神と習慣を身につけ、2) 支援の必要な人々への共感を養い、3) 学校教育への理解を深め、4) 自身の教師として適性を確認する。また、5) 教育への使命感を養い、6) 対人関係能力を高め、7) 児童生徒への理解を深め、8) 学校で学ぶ教科等に習熟することを目指す。</p>
授業の概要	<p>学校ボランティアの意義や心構えを理解し、西原町内の小学校・中学校において、1) 学習支援ボランティア、2) 特別支援ボランティア、3) 授業補助、4) 学級事務補助、5) その他の学校教育活動に関するボランティア、を行う。木曜日のの午後に、1回3時間程度の学校ボランティアを、10週間、行う。途中、2回の中間報告会、1回の成果報告会を行い、経験を共有することで、上記の達成目標を目指す。担当者は14年公立の高校における教員経験と19年の行政及び学校現場管理者としての経験を有するものであり、その経験を活かして、学生の現場での実践力や職場理解、子ども理解について講義する。</p>
授業計画	<p>実習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学修支援の目的と意義、必要性</li> <li>2 実習校の調査、配置、名簿作成、記録簿の作成手順</li> <li>3 学習支援ボランティア、特別支援ボランティアの事例研究</li> <li>4 教師の仕事、学校教育への理解を深める</li> <li>5 中間報告会①（実習を3回終了後の土曜日、直面する困難の共有を中心に）</li> <li>6 中間報告会②（実習を7回終了後の土曜日、自身の課題の報告を中心に）</li> <li>7 成果報告会</li> </ol> <p>体験10回（各回4時間程度） 実習校の実情に応じて、担当者の指示に従い、1) 学習支援ボランティア、2) 特別支援ボランティア、3) 授業補助、4) 学級事務補助、5) その他の学校教育活動に関するボランティア、を行う。</p> <p>【事前学習】霜田浩信『学校ボランティアハンドブック』（ほんの森出版、2011年）を熟読すること。 【事後学習】沖縄キリスト教学院大学『学校ボランティア日誌』（2025年）に反省事項を記入すること。</p>
授業における具体的な特色や方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></li> <li>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></li> <li>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></li> <li>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></li> <li>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></li> </ol>
テキスト	なし。必要に応じて随時紹介する。
参考書	霜田浩信『学校ボランティアハンドブック』ほんの森出版、2011年 沖縄キリスト教学院大学『学校ボランティア日誌』2025年
評価方法	実習校からの評価40%、報告会での発言・態度40%、提出物20%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	西原町内の小学校で役割を与えられる。やむをえない事情がない限り休まずに自身の役割をこなすこと。しっかりとした大人として小学生の教育を支援すること。
オフィスアワー	火曜日の4限目

課題に対する フィードバック方 法	発表会においてコメントする。『学校ボランティア日誌』でフィードバックする。
-------------------------	---------------------------------------